

今日のトピック 12時速報：日米決定会合
FRBは利下げ、日銀は据え置きを決定
ポイント1 日銀：政策金利は現状維持

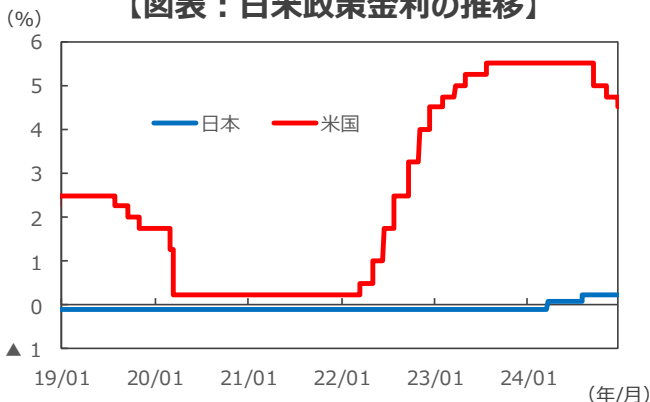
- 日銀は12月18、19日の金融政策決定会合において、無担保コール翌日物金利の誘導目標を0.25%程度に据え置きました。結果は概ね市場予想通りでした。発表後、ドル円は円安方向に反応し、12時現在、1ドル=155円付近で推移しています。
- 国内経済や物価は見通し通り推移し利上げ環境は整いつつあるとの見方がある中、日銀は7月の利上げ実施以降、慎重な姿勢を維持しています。今後、国内外の経済・物価動向を総合的に丁寧に見極め、利上げの判断をしていくと見られます。

ポイント2 FRB：利下げを決定、今後の利下げ想定回数は減少

- 12月17、18日、米連邦準備制度理事会（FRB）は米連邦公開市場委員会（FOMC）を開催し、政策金利（フェデラル・ファンド（FF）金利）の誘導目標レンジを市場予想通りに0.25%引き下げ、4.25～4.50%としました。4年半ぶりの利下げを決定した9月会合以降、3回目の引き下げとなりました。
- 四半期に一度公表されるFOMCメンバーによる政策金利の見通し（中央値）によると、2025年中に2回の利下げが想定されており、前回（9月時点：4回）から利下げ回数が減少しました。また、利下げサイクルが早期に終了するとの市場の思惑を背景に注目されている「Longer-run」（長期の見通し）は3.000%となり、前回（9月時点：2.875%）から引き上げられました。

今後の展開
米新政権の動向も日米金融政策の不透明要因に

- 2025年1月20日には、米国でトランプ新政権が発足します。同氏が掲げる関税政策などは米国だけではなく世界のインフレ・経済動向に影響を及ぼすとの見方から、日米の金融政策の先行きにも不透明感が漂っています。
- そのため、今後公表される経済指標や要人発言などに市場の注目が集まりやすい状況が続くと見られます。まずは、本日（19日）15時半から始まる植田日銀総裁の記者会見が特に注目されます。

【図表：日米政策金利の推移】


（注1）データは2019年1月1日～2024年12月19日。米国は18日まで。
（注2）日本：日銀当座預金、2024年3月19日以降は無担保コール翌日物金利、米国：FF金利の上限。

（出所）Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

**シニアリサーチストラテジスト
相馬詩絵（そうま ふみえ）**

**ここも
チェック！**

2024年11月26日 2024年12月の注目イベント 日米欧の金融政策に注目
2024年10月29日 2024年11月の注目イベント 米国の大統領選挙が最大の注目材料

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。